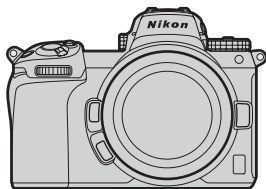


Nikon

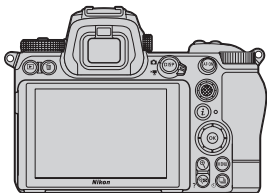


Z 7 II / Z 6 II Professional

シーン別推奨設定ガイド

— 静止画撮影編 —

Revision 1.0







目次

風景 7

風景撮影の基本設定 8

- フォーカスモードを **AF-S**、
AF エリアモードを [シングルポイント AF] に !! 9
- 手持ち撮影時は手ブレ補正を [ノーマル] に !! 9
- サイレント撮影を [する] に !! 11
- ローライト AF を [する] に !! 12
- 露出ディレイモードを [1 秒] に !! 12
- モニターモードを [モニターのみ] に !! 13

風景撮影に便利なカスタムボタンの割り当てについて 14

-  プレビュー 15
-  格子線表示 15
- **RESET** フォーカスポイント中央リセット 15
-  ライブビュー情報表示の消灯 15
-  拡大画面との切り換え 16

ポートレート 17

ポートレート撮影の基本設定 18

- ピクチャーコントロールを [ポートレート] に !! 18
- フォーカスモードを **AF-C** に !! 19
- AF エリアモードを [ワイドエリア AF (L-人物)] に !! 19
- 手ブレ補正を [ノーマル] に !! 20
- 縦 / 横位置フォーカスポイント切換を [する] に !! 21
- モニターモードを [ファインダー優先] に !! 22

ポートレート撮影に便利な カスタムボタンの割り当てについて	23
● ▶ 再生	24
● RESET フォーカスポイント中央リセット	24
● Ⓜ アクティブ D- ライティング設定	24
● Q 拡大画面との切り換え	25

スポーツ **27**

スポーツ撮影や動く被写体を撮影するための基本設定	28
● フォーカスモードを AF-C に !!	29
● AF エリアモードを [ダイナミック AF] に !!	29
● 手ブレ補正を [スポーツ] に !!	30
● モニターモードを [ファインダー優先] に !!	31

スポーツ撮影に便利なカスタムボタンの割り当てについて	32
● ▶ 再生	33
● On プロテクト	33
● RESET フォーカスポイント中央リセット	33
● AF/L フォーカスモード / AF エリアモード	34
● Q 拡大画面との切り換え	34

動画モードの静止画撮影機能を使って 決定的な瞬間をとらえたい	35
---	-----------

高速連続撮影と高速連続撮影（拡張）の違いを知りたい	38
● 撮影画面について	39
● 連続撮影速度について	40

シャッタースピードと絞り値を 維持して適正露出で撮影したい	42
--	-----------

便利な機能 45

よく使う機能を撮影モードダイヤルに登録したい 46

ファインダー撮影時に目が疲れないようにしたい 47

フリッカー現象の影響を低減して撮影したい 48

ターゲット追尾 AF を使って

動く被写体にピントを合わせ続けたい 50

ピント合わせの操作とリリース操作を

別のボタンに分けたい 52

動物 AF を使って犬や猫の顔や瞳にピント合わせをしたい 53

● 動物撮影の基本設定 53

● AF エリアモードを [ワイドエリア AF (L- 動物)] に!! 53

必要な画像に印をつけたい 56

● プロテクトを設定する 56

● レーティングを設定する 58

タイムラプス 61

タイムラプス動画とは 62

● [インターバルタイマー撮影] と
[タイムラプス動画] の違いについて 62

タイムラプス撮影の準備と基本設定 64

● 事前の準備 64

● 撮影開始前の準備 65

● [インターバルタイマー撮影] の基本設定 66

● その他の基本設定 71

撮影シーン別の推奨設定	72
● 日の入りを撮影する場合	72
● 雲の流れを撮影する場合	74
撮影開始前の最終チェックリスト.....	76

風景

風景写真をより鮮明に、より快適に撮影するための基本設定やおすすめ機能を紹介します。



風景撮影の基本設定

風景写真を撮影する場合におすすめの設定は次の通りです。

静止画撮影メニュー	
フォーカスモード	AF-S
AF エリアモード	シングルポイント AF
回折補正	する
手ブレ補正	手持ち撮影時：ノーマル 三脚使用時：しない ^{※1}
サイレント撮影	する
カスタムメニュー	
a6 半押し AF レンズ駆動	する
a10 ローライト AF	する
d4 露出ディレーモード	1 秒 ^{※2}
その他	
レリーズモード	1 コマ撮影
モニターモード	モニターのみ

※1 使用するレンズに手ブレ補正機能がある場合は、レンズによっておすすめの設定が異なります ([Q10](#))。

※2 別売のリモートコントロールアクセサリーをお持ちの場合は、[露出ディレーモード] の代わりにリモートコントロールアクセサリーのご使用をおすすめします。

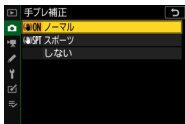
● フォーカスモードを AF-S、AF エリアモードを [シングルポイント AF] に !!

撮影者がピント合わせをしたいポイントを選び、シャッターボタンを半押しするとフォーカスがロックされるため、風景撮影などの静止している被写体撮影の基本的な組み合わせです。



● 手持ち撮影時は手ブレ補正を [ノーマル] に !!

手ブレ補正の設定は、カメラを手持ちで撮影するのか、カメラを三脚に固定して撮影するのによって設定を変更してください。



- ・ 手持ちで撮影する場合は [ノーマル] に設定してください。手ブレ補正効果が高く、静止している被写体を撮影する場合に適しています。

風景撮影の基本設定

- マウントアダプター FTZ を使用して手ブレ補正切り替えスイッチのある F マウントレンズを装着している場合、[手ブレ補正] はグレーで表示されて設定できません。レンズで手ブレ補正の設定を行ってください。
- 三脚使用時のおすすめの設定はレンズによって異なります。
 - 手ブレ補正機能がある Z マウントレンズを装着している場合は [ノーマル]、手ブレ補正機能がないレンズを装着している場合は [しない] に設定してください。
 - 次の F マウントレンズを装着している場合、レンズ側で手ブレ補正機能をノーマルにしてください。それ以外の F マウントレンズを装着している場合は、レンズの説明書をご覧ください。
 - AF-P DX NIKKOR 10-20mm f/4.5-5.6G VR
 - AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR
 - AF-P DX NIKKOR 70-300mm f/4.5-6.3G ED VR
 - AF-P NIKKOR 70-300mm f/4.5-5.6E ED VR
 - AF-S DX NIKKOR 16-80mm f/2.8-4E ED VR
 - AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8E ED VR
 - AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8E FL ED VR
 - AF-S NIKKOR 120-300mm f/2.8E FL ED SR VR
 - AF-S NIKKOR 180-400mm f/4E TC1.4 FL ED VR
 - AF-S NIKKOR 200-500mm f/5.6E ED VR
 - AF-S NIKKOR 500mm f/4E FL ED VR
 - AF-S NIKKOR 500mm f/5.6E PF ED VR
 - AF-S NIKKOR 600mm f/4E FL ED VR

FTZ のファームウェアバージョンについて

Z 7II/Z 6II でマウントアダプター FTZ をご使用の場合、FTZ のファームウェアは Ver.1.10 以降になっている必要があります。

- ・ファームウェアバージョンは、FTZ を装着した状態でセットアップメニュー [ファームウェアバージョン] を実行すると確認できます。
- ・ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。

● サイレント撮影を [する] に !!

静止画撮影メニューの [サイレント撮影] を [する] に設定すると、電子シャッターが使用できます。メカニカルなシャッター動作によるカメラブレを抑えることができます。



サイレント撮影について

- ・次の場合は、[サイレント撮影] を [しない] に設定してください。
 - フラッシュ撮影したい場合
 - 長秒時ノイズ低減またはフリッカー低減を使用したい場合
 - ISO 感度を高感度 (Hi 0.3 ~ Hi 2.0) に設定したい場合
 - 被写体に動きがあり、画像が歪む場合
- ・その場合、カスタムメニュー d5 [シャッター方式] を [オート] に設定することをおすすめします。シャッタースピードによって先幕シャッターが電子先幕シャッターに自動で切り替わるため、カメラブレを抑えながら撮影できます。

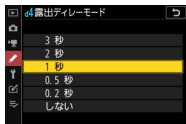
● ローライト AF を [する] に!!

カスタムメニュー a10 [ローライト AF] を [する] に設定すると、フォーカスモードが **AF-S** のときに暗い場所でもピントが合いやすくなります。夕景や夜景の撮影に便利です。



● 露出ディレーモードを [1 秒] に!!

カスタムメニュー d4 [露出ディレーモード] では、シャッターボタンを押してからシャッターがきるまでの時間を設定できます。1 秒以上に設定しておくと、シャッターボタン操作時のカメラブレを最小限に抑えられます。[しない] 以外に設定すると、撮影画面に **DLY** アイコンが表示されます。



● モニターモードを【モニターのみ】に!!

画像モニターを見ながら撮影する場合、モニターモード切り換えボタンを押して【モニターのみ】に設定することをおすすめします。アイセンサーに顔や指を近づけても画像モニターの表示が消えることがないため、構図作りに集中できます。



モニターモードの【ファインダー優先】について

これまでのデジタル一眼レフカメラと似た動作になります。

- 静止画モードの場合、ファインダーに顔を近づけるとファインダー内に撮影画面が表示されますが、顔を離しても画像モニターには撮影画面は表示されません。
- **MENU** ボタンや **▶** ボタンを押すと、画像モニターにメニューや再生画面が表示されます。
- これまでのデジタル一眼レフカメラの操作に慣れていて、手持ちでファインダーを見ながら撮影する場合におすすめします。

風景撮影に便利なカスタムボタンの割り当てについて

風景撮影時におすすめのカスタムボタンおよび **OK** ボタンの機能の割り当ては次の通りです。

Fn1 ボタン	プレビュー
Fn2 ボタン	格子線表示
AF-ON ボタン	AF-ON
サブセレクター中央ボタン	RESET フォーカスポイント中央リセット
動画撮影ボタン	OFF ライブビュー情報表示の消灯
OK ボタン	撮影時： 拡大画面との切り換え (拡大率：[等倍 (100%)]) 再生時： 拡大画面との切り換え (拡大率：[等倍 (100%)])

- カスタムボタンの機能はカスタムメニュー f2 [カスタムボタンの機能]、**OK** ボタンの機能はカスタムメニュー f3 [OK ボタンの機能] で設定を行います。



● プレビュー

ボタンを押している間、現在設定している色味や露出、被写界深度を撮影画面の表示に反映します。風景写真の仕上がりを確認しながら撮影することができます。

● 格子線表示

ボタンを押すと撮影画面に構図用格子線を表示します。撮影時に水平や垂直に気をつけて構図を決めたい場合に表示させておくとう便利です。

● RESET フォーカスポイント中央リセット

ボタンを押すと、フォーカスポイントを移動しても素早く中央に戻せます。フォーカスポイントの移動を主にサブセレクターで行っている場合、サブセレクター中央ボタンに割り当てておくとう便利です。

● ライブビュー情報表示の消灯

ボタンを押すと撮影画面のアイコンや撮影情報を非表示にします。撮影時の構図を隅々まで確認したいときに便利です。



● ④ 拡大画面との切り換え


撮影時

④ ボタンを押すと、フォーカスポイントを中心にして設定した拡大率で拡大表示します。被写体にピントが合っているかを確認するのに便利です。特にオートフォーカスが苦手な被写体に対してマニュアルフォーカスで、より厳密にピント合わせをしたい場合に便利です。

- ・ 拡大率はカスタムメニュー f3 [OK ボタンの機能] の [撮影モード] で [拡大画面との切り換え] を選んで  を押すと設定できます。

再生時

④ ボタンを押すと、撮影時のフォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。被写体にピントが合っているかどうかを確認できます。

- ・ 拡大率はカスタムメニュー f3 [OK ボタンの機能] の [再生モード] で [拡大画面との切り換え] を選んで  を押すと設定できます。

ポートレート

ポートレート撮影時に被写体に集中して撮影を行うための基本設定やおすすめの機能を紹介します。



ポートレート撮影の基本設定

ポートレート撮影する場合におすすめの設定は次の通りです。

静止画撮影メニュー	
ピクチャーコントロール	ポートレート
フォーカスモード	AF-C
AF エリアモード	ワイドエリア AF (L- 人物)
手ブレ補正	ノーマル
サイレント撮影	しない

カスタムメニュー	
a5 縦 / 横位置 フォーカスポイント切換	する
d5 シャッター方式	オート

その他	
モニターモード	ファインダー優先

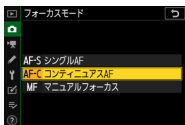
● ピクチャーコントロールを【ポートレート】に!!

人物の肌が滑らかで自然な画像になります。



● フォーカスモードを AF-C に !!

シャッターボタンを半押ししている間または **AF-ON** ボタンを押している間は常にピントを合わせ続けるモードです。動く被写体の撮影に最適です。



● AF エリアモードを [ワイドエリア AF (L-人物)] に !!

AF エリアモードを [ワイドエリア AF (L-人物)] に設定すると、カメラがフォーカスポイント内にある人物の顔と瞳を検出します (瞳 AF/ 顔検出 AF)。特定の人物にピント合わせをしたい場合におすすめします。



- ・カメラが人物の顔を検出した場合、顔に黄色の枠 (フォーカスポイント) が表示されます。瞳を検出できるときは、左右どちらかの瞳に黄色のフォーカスポイントが表示されます。自動でフォーカスポイントが顔や瞳の位置に移動するため、被写体が動いても構図や表情に集中して撮影できます。

[オートエリア AF (人物)] に設定した場合

[オートエリア AF (人物)] に設定した場合も人物の顔や瞳を検出できます。複数の顔や瞳を検出すると、フォーカスポイントに ◀ および ▶ が表示されます。マルチセレクターの ◀ ▶ を押してピント合わせをしたい顔や瞳を選ぶことができます。



暗い場所でピントを合わせやすくするには

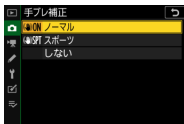
カスタムメニュー a10 [ローライト AF] を [する] に設定すると、フォーカスモードが **AF-S** のときに暗い場所でもピントが合いやすくなります。



● 手ブレ補正を【ノーマル】に!!

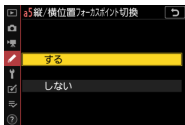
[ノーマル] を選ぶと高い手ブレ補正効果が得られます。

- 手ブレ補正機能があるレンズを装着している場合、[ノーマル] に設定しているとシャッターリリース後に撮影画面の表示がわずかに動くことがありますが、異常ではありません。違和感がある場合は [スポーツ] に設定するとファインダー像が安定し、フレーミングに集中して撮影を行えます。
- マウントアダプター FTZ を使用して手ブレ補正切り替えスイッチのある F マウントレンズを装着している場合、[手ブレ補正] はグレーで表示されて設定できません。レンズで手ブレ補正の設定を行ってください。



● 縦 / 横位置フォーカスポイント切換を 【する】に!!

カスタムメニュー a5 [縦 / 横位置フォーカスポイント切換] を【する】に設定すると、カメラを正位置（横位置）、時計回りの縦位置、反時計回りの縦位置にしたときで個別にフォーカスポイントを設定できます。



縦位置反時計回りに
90°回転



横位置



縦位置時計回りに
90°回転

● モニターモードを【ファインダー優先】に!!

これまでのデジタル一眼レフカメラの操作に慣れていて、手持ちでファインダーを見ながら撮影する場合におすすめします。



- 静止画モードの場合、ファインダーに顔を近づけるとファインダー内に撮影画面が表示されますが、顔を離しても画像モニターには撮影画面は表示されません。
- **MENU** ボタンや **▶** ボタンを押すと、画像モニターにメニューや再生画面が表示されます。

ポートレート撮影に便利な カスタムボタンの割り当てについて

ポートレート撮影時におすすめのカスタムボタンおよび **OK** ボタンの機能の割り当ては次の通りです。

Fn1 ボタン	▶ 再生
Fn2 ボタン	AF/AF-ON フォーカスモード / AF エリアモード
AF-ON ボタン	AF-ON AF-ON
◎ サブセレクター 中央ボタン	RESET フォーカスポイント中央リセット
📷 動画ボタン	📷 アクティブ D-ライティング設定
OK ボタン	🔍 撮影時：拡大画面との切り換え (拡大率：[等倍 (100%)]) 再生時：拡大画面との切り換え (拡大率：[等倍 (100%)])

- ・ カスタムボタンの機能はカスタムメニュー f2 [カスタムボタンの機能]、**OK** ボタンの機能はカスタムメニュー f3 [OK ボタンの機能] で設定を行えます。



● ▶ 再生

ボタンを押すと再生画面を表示します。ファインダーを見ながら撮影をしている場合、左手をレンズに添えた撮影姿勢のまま右手でボタンを押すことができ、撮影した画像をすぐにファインダーで確認できます。

● RESET フォーカスポイント中央リセット

ボタンを押すと、フォーカスポイントを移動しても素早く中央に戻せます。フォーカスポイントの移動を主にサブセレクターで行っている場合、サブセレクター中央ボタンに割り当てておくと便利です。

● 暗 アクティブ D- ライティング設定

ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、アクティブ D- ライティングの設定を変更できます。暗い室内から外にいる人物を撮影したり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい場所で撮影をする場合に便利です。

● 🔍 拡大画面との切り換え

撮影時

Ⓞ ボタンを押すと、フォーカスポイントを中心にして設定した拡大率で拡大表示します。被写体にピントが合っているかを確認するのに便利です。特にオートフォーカスが苦手な被写体に対してマニュアルフォーカスで、より厳密にピント合わせをしたい場合に便利です。

- ・ 拡大率はカスタムメニュー f3 [OK ボタンの機能] の [撮影モード] で [拡大画面との切り換え] を選んで  を押すと設定できます。

再生時

Ⓞ ボタンを押すと、撮影時のフォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。被写体にピントが合っているかどうかを確認できます。

- ・ 拡大率はカスタムメニュー f3 [OK ボタンの機能] の [再生モード] で [拡大画面との切り換え] を選んで  を押すと設定できます。

スポーツ

スポーツなど、動きのある被写体を撮影する場合の基本設定やおすすめの機能を紹介します。



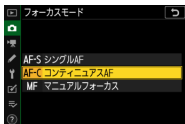
スポーツ撮影や動く被写体を撮影するための基本設定

スポーツ撮影などの動く被写体を撮影する場合におすすめの設定は次の通りです。

静止画撮影メニュー	
フォーカスモード	AF-C
AF エリアモード	ダイナミック AF
手ブレ補正	スポーツ
サイレント撮影	しない
カスタムメニュー	
a3 AF ロックオン	3
d5 シャッター方式	オート
その他	
レリーズモード	高速連続撮影、 高速連続撮影（拡張）
シャッタースピード	1/500 秒以上の高速
モニターモード	ファインダー優先

● フォーカスモードを AF-C に !!

シャッターボタンを半押ししている間
または **AF-ON** ボタンを押している間は
常にピントを合わせ続けるモードです。
動く被写体の撮影に最適です。



● AF エリアモードを [ダイナミック AF] に !!

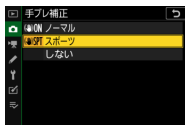
撮影者が選んだフォーカスポイントで
ピント合わせを行います。選んだフォー
カスポイントから被写体が一時的に外
れても、周辺のフォーカスポイントか
らのピント情報を利用してピントを合
わせます。



- ・ [ダイナミック AF] はフォーカスモードが **AF-C** の場合のみ選べます。
- ・ 被写体の動きが速くて追いきれない場合などは、広い範囲（エリア）で被写体をとらえることができる [ワイドエリア AF (S)] または [ワイドエリア AF (L-人物)] もお試しください。

● 手ブレ補正を【スポーツ】に!!

【スポーツ】を選ぶと、動きの速い被写体や、動きの変化が激しい被写体を撮影する場合にもファインダー像が安定し、フレーミングに集中して撮影を行えるのでおすすめです。



- ・【ノーマル】と比べて撮影画面の見え方が自然なため、高速連続撮影時も被写体を追いやすくなります。【スポーツ】に設定していても表示の動きが気になる場合は、【しない】に設定してください。
- ・装着したレンズによっては【スポーツ】が設定できない場合があります。
- ・マウントアダプター FTZ を使用して手ブレ補正切り替えスイッチのある F マウントレンズを装着している場合、【手ブレ補正】はグレーで表示されて設定できません。レンズで手ブレ補正の設定を行ってください。

● モニターモードを【ファインダー優先】に!!

これまでのデジタル一眼レフカメラの操作に慣れていて、手持ちでファインダーを見ながら撮影する場合におすすめします。



- 静止画モードの場合、ファインダーに顔を近づけるとファインダー内に撮影画面が表示されますが、顔を離しても画像モニターには撮影画面は表示されません。
- **MENU** ボタンや **▶** ボタンを押すと、画像モニターにメニューや再生画面が表示されます。

● 再生

ボタンを押すと再生画面を表示します。ファインダーを見ながら撮影をしている場合、左手をレンズに添えた撮影姿勢のまま右手でボタンを押すことができ、撮影した画像をすぐにファインダーで確認できます。

● プロテクト

ボタンを押すと、再生画面に表示されている画像をプロテクト（保護）します。Fn ボタンに割り当てておくことで **i** メニューから操作を行うよりも時間が短縮でき、必要な画像に素早く印をつけたい場合に便利です。

● **RESET** フォーカスポイント中央リセット

ボタンを押すと、フォーカスポイントを移動しても素早く中央に戻せます。フォーカスポイントの移動を主にサブセレクターで行っている場合、サブセレクター中央ボタンに割り当てておくとう便利です。


● AF/[+] フォーカスモード /AF エリアモード


ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとフォーカスモード、サブコマンドダイヤルを回すと AF エリアモードの設定を変更できます。

- 初期設定では **Fn2** ボタンに割り当てられています。**Fn2** ボタンの設定を変更した場合、他のボタンにこの機能を割り当てておくことをおすすめします。


● 拡大画面との切り換え

撮影時

 ボタンを押すと、フォーカスポイントを中心に設定した拡大率で拡大表示します。被写体にピントが合っているかを確認するのに便利です。

- 拡大率はカスタムメニュー f3 [OK ボタンの機能] の [撮影モード] で [拡大画面との切り換え] を選んで  を押すと設定できます。

再生時

 ボタンを押すと、撮影時のフォーカスポイントを中心に、設定した拡大率で拡大表示します。被写体にピントが合っているかどうかを確認できます。

- 拡大率はカスタムメニュー f3 [OK ボタンの機能] の [再生モード] で [拡大画面との切り換え] を選んで  を押すと設定できます。

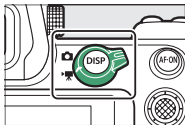
動画モードの静止画撮影機能を使って 決定的な瞬間をとらえたい

ゴルフのスイングのように被写体の動きが極めて速い場合、連続撮影してもインパクトの瞬間がとらえられないことがあります。その場合、動画モードに切り替えてシャッターボタンを全押しすると、最大 120 コマ / 秒で静止画の撮影が可能です。これにより、今まで撮れなかった瞬間の画像を撮影できるようになります。



1



静止画 / 動画切り換えレバーを **●** に合わせて動画モードにする




2 動画撮影メニュー [画像サイズ/フレームレート] で [1920 × 1080 120p] を選ぶ



- 1秒間に撮影できる連続撮影速度は、設定したフレームレートに相当します。たとえば [1920 × 1080 120p] に設定した場合、約 120コマ/秒になります。
- 撮影される静止画の画像サイズは動画の画像サイズと同じです。アスペクト比は 16 : 9 になります。
- 画像サイズやフレームレートは動画モードの **i** メニュー [画像サイズ/フレームレート/画質] でも設定できます。

3  () ボタンを押して [連続撮影] に設定する

マルチセレクターで [連続撮影] を選び、 ボタンを押して決定します。



4 フォーカスモードと AF エリアモードを設定する

フォーカスモードは **AF-C**、AF エリアモードは [ワイドエリア AF (S)] をおすすめします。

高速連続撮影と高速連続撮影（拡張）の違いを知りたい

Z 7II/Z 6II の連続撮影で選べる [高速連続撮影] と [高速連続撮影（拡張）] の違いは次の通りです。撮影時のシチュエーションや被写体によって、使い分けることをおすすめします。

高速連続撮影（拡張）



高速連続撮影

	高速連続撮影	高速連続撮影（拡張）
連続撮影速度	約 5.5 コマ / 秒	Z 7II：最高 10 コマ / 秒、 Z 6II：最高 14 コマ / 秒
AE	追従	
AF	追従	
フリッカー低減機能	使用可能	無効（機能しない）
連続撮影中の画像モニター / ファインダー像	露光中はブラックアウト	撮影済みの画像が遅れて表示
おすすめの 使用シーンや 被写体	<ul style="list-style-type: none"> フリッカー現象が発生している環境下 運動会 	<ul style="list-style-type: none"> プラケット撮影 ポートレート撮影 鉄道

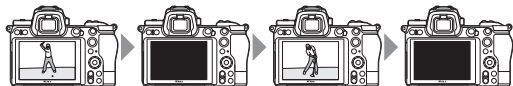
● 撮影画面について

高速連続撮影と高速連続撮影（拡張）では、シャッターをきったときの撮影画面の表示が異なります。

被写体の動き

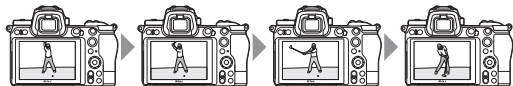


■ 高速連続撮影



高速連続撮影は、シャッターがきれる瞬間に撮影画面が一瞬ブラックアウトしますが、撮影画面には被写体がほぼリアルタイムで表示されます。

■ 高速連続撮影（拡張）



高速連続撮影（拡張）は、シャッターがきれる瞬間の撮影画面の暗転はありませんが、撮影画面はリアルタイムではなく、撮影した画像が少し遅れて表示されます。

高速連続撮影と高速連続撮影（拡張）の違いを知りたい

● 連続撮影速度について

連続撮影時の最大撮影速度は、カメラやカメラの設定によって異なります。

Z 7II の場合

画質モード	記録ビットモード	サイレント撮影	高速連続撮影	高速連続撮影（拡張）
JPEG	—	しない	約 5.5 コマ / 秒	約 10 コマ / 秒 ^{*1}
RAW を含む画質モード	12 ビット 14 ビット		約 5 コマ / 秒	約 9 コマ / 秒 ^{*2}
JPEG	—	する	約 4 コマ / 秒	約 8 コマ / 秒
RAW を含む画質モード	12 ビット 14 ビット		約 3.5 コマ / 秒	約 6.5 コマ / 秒

Z 6II の場合

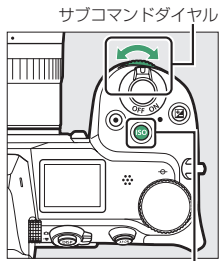
画質モード	記録ビットモード	サイレント撮影	高速連続撮影	高速連続撮影（拡張）
JPEG	—	しない	約 5.5 コマ / 秒	約 14 コマ / 秒 ^{*1}
RAW を含む画質モード	12 ビット 14 ビット			約 10 コマ / 秒 ^{*2}
JPEG	—	する	約 4.5 コマ / 秒	約 12 コマ / 秒
RAW を含む画質モード	12 ビット 14 ビット		約 4 コマ / 秒	約 8 コマ / 秒

-
- ※ 1 フォーカスモードが **MF** または **AF-S** に設定されている場合、またはフォーカスモードが **AF-C** で AF エリアモードが [シングルポイント AF] に設定されている場合の最大撮影速度です。それ以外の場合、Z 7II は約 9 コマ / 秒、Z 6II は約 12 コマ / 秒になります。
- ※ 2 フォーカスモードが **MF** または **AF-S** に設定されている場合、またはフォーカスモードが **AF-C** で AF エリアモードが [シングルポイント AF] に設定されている場合の最大撮影速度です。それ以外の場合、Z 7II は約 8 コマ / 秒、Z 6II は約 9 コマ / 秒になります。

シャッタースピードと絞り値を維持して適正露出で撮影したい

デーゲームのサッカースタジアムや野球場などの日なたと日陰が混在するような場所で、設定したシャッタースピードや絞り値を維持したい場合、ISO感度を固定すると適切な露出を得られないことがあります。感度自動制御機能を使用すると、ISO感度が自動的に調整されるため適正露出で撮影することができます。

- **ISO** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと **ISO AUTO** (感度自動制御をする) と **ISO** (感度自動制御をしない) に切り替われます。



ISO ボタン

- 感度自動制御機能をする設定の場合、静止画撮影メニュー **[ISO 感度設定]** の **[制御上限感度]** で上限感度 (Z 7II は 100 ~ Hi 2.0、Z 6II は 200 ~ Hi 2.0) を設定できます。感度自動制御するとき ISO 感度が高くなりすぎず、ノイズを抑えられます。

ISO感度設定	
ISO感度	100
感度自動制御	ON
制御上限感度	25600
使用時の制御上限感度	25600
低速限界設定	AUTO

- ・ [ISO 感度設定] の [低速限界設定] では、撮影モードが **P** または **A** のときに感度自動制御が働き始めるシャッタースピードを 1/4000 ～ 30 秒の間で設定できます。[オート] に設定すると、レンズの焦点距離に応じて低速限界をカメラが自動で設定します。



スポーツや動く被写体を撮影するときの簡易的な露出設定について

屋内と屋外のように、明るさが異なる場所に繰り返し移動するような場合、[「スポーツ撮影や動く被写体を撮影するための基本設定」\(□28\)](#) の設定に加え、次のように設定することをおすすめします。

- ・ 撮影モード：**A** (絞り優先オート)
- ・ 感度自動制御：する
- ・ 低速限界設定：1/500 秒

撮影モード **A** では、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。シャッタースピードが 1/500 秒よりも低速になるとカメラが判断した場合は感度を自動的にあげるため、1/500 秒より低速で撮影することはありません。屋内外の環境に順応しながら、被写体ブレを抑えた撮影が可能です。なお ISO 感度が高くなると、撮影した画像にノイズ (ざらつき、むら、すじ) が発生しやすくなります。

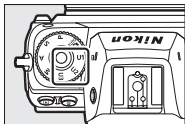
便利な機能

撮影シーンにかかわらずに使える便利な機能を紹介します。

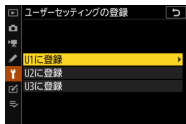


よく使う機能を撮影モードダイヤルに登録したい

撮影モードダイヤル **U1**、**U2**、**U3** には、よく使う機能を登録できます。風景撮影時の設定は **U1**、ポートレート撮影時の設定は **U2**、スポーツ撮影時の設定は **U3** というように、撮影シーン別に設定を登録しておけば、撮影モードダイヤルを切り替えるだけで複数の設定を一気に変更できます。



- **U1**、**U2**、**U3** には、次の撮影機能を登録できます。
 - 静止画撮影メニュー項目
 - 動画撮影メニュー項目
 - カスタムメニュー項目
 - 撮影モード、シャッタースピード（撮影モード **S**、**M**）、絞り値（撮影モード **A**、**M**）、プログラムシフト（撮影モード **P**）、露出補正、調光補正など
- セットアップメニュー [ユーザーセッティングの登録] で [U1 に登録]、[U2 に登録] または [U3 に登録] のいずれかを選んで \odot を押します。[はい] を選んで OK ボタンを押すと、現在の設定内容が登録されます。

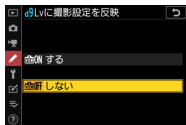


ユーザーセッティングについて

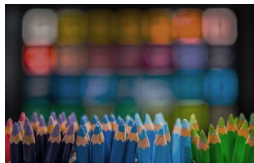
- [カスタムピクチャーコントロール] や [多重露出] など、一部登録できないメニュー項目があります。
- ユーザーセッティングのリセットはセットアップメニュー [ユーザーセッティングのリセット] で行えます。

ファインダー撮影時に 目が疲れないようにしたい

ファインダー撮影時に、長時間ファインダーを見ていると目が疲れることがあります。カスタムメニュー d9 [Lv に撮影設定を反映] を [しない] に設定すると、ホワイトバランス、ピクチャーコントロール、露出補正の設定などを撮影画面に反映せず、ファインダー表示に適した色味や明るさで表示されるため、長時間ファインダーを見ながら撮影する場合に適しています。



[する]



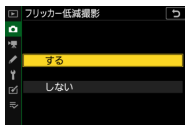
[しない]

- ・ 撮影画面と実際に撮影された画像で色味が異なることがあるため、撮影後は画像を確認することをおすすめします。
- ・ 動画モード時は d9 [Lv に撮影設定を反映] の設定にかかわらず、常に撮影の設定を反映します。

フリッカー現象の影響を低減して撮影したい

蛍光灯をはじめとする一部の人工照明下で撮影すると、照明の明滅による明るさのちらつき（フリッカー現象）によって画像の一部に露出ムラが生じたり、連続撮影時に露出や色味にばらつきが生じることがあります。フリッカー低減機能を使うと、フリッカーの周期を検知し、露出や色合いへの影響が少ないタイミングでシャッターがきれるように撮影のタイミングを調整します。

- フリッカー低減機能を使うには、静止画撮影メニューの「フリッカー低減撮影」を「する」にします。



[する]



[しない]

- 「する」に設定すると、撮影画面に **FLICKER** アイコンが表示されます。
- 「する」に設定しても、**FLICKER** アイコンが表示されない場合や、フリッカー低減機能が動作しないことがあります ([Q49](#))。

【フリッカー低減撮影】について

- フリッカー低減機能を使うと、光源によってシャッターのきれるタイミングが少し遅れることがあります。
- 電源周波数が 50Hz の場合は 100Hz の点滅周期を、また電源周波数が 60Hz の場合は 120Hz の点滅周期を検出します。連続撮影中に光源の点滅周期が変化した場合、フリッカーの影響は低減できません。
- 背景が暗い場合や輝度が高い光源が含まれる場合など光源や撮影条件によっては、フリッカーが検出できなかったり、フリッカー低減の効果が得られないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカー低減機能の効果が得られないことがあります。

静止画撮影メニュー【フリッカー低減撮影】の制限について

次の場合など、静止画撮影メニュー【フリッカー低減撮影】が無効になります。

- レリーズモードが【高速連続撮影（拡張）】の場合
- 静止画撮影メニュー【サイレント撮影】が【する】の場合
- インターバルタイマー撮影、タイムラプス動画、またはフォーカスシフト撮影を行うときに、それぞれの機能の【サイレント撮影】を【する】にしている場合
- HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影時
- 露出ディレーモードが有効の場合

動画撮影時のフリッカー低減機能について

動画撮影時は動画撮影メニュー【フリッカー低減】で設定を変更します。通常はカメラが自動的に電源周波数を選ぶ【オート】をお使いください。

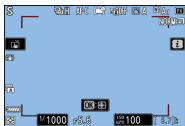
ターゲット追尾 AF を使って 動く被写体にピントを合わせ続けたい

ターゲット追尾 AF を使用する場合、フォーカスモードを **AF-C**、AF エリアモードを [オートエリア AF]、[オートエリア AF (人物)]、[オートエリア AF (動物)] に設定することをおすすめします。ターゲット追尾を開始すると被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動し、シャッターボタンの半押しまたは **AF-ON** ボタンを押している間ピントを合わせ続けます。



追尾を開始するには

- **OK** ボタンを押し、ターゲット追尾 AF を開始します。
- 必要に応じてフォーカスポイントを移動します。
- ターゲットとなる被写体がフォーカスポイントの位置にきたら、シャッターボタンを半押しし続けるか **AF-ON** ボタンを押し続けます。



- ・ ボタンを押している間はフォーカスポイントの色が黄色に変わってターゲットを追尾します。
- ・ **OK** ボタンを押すか画像モニターをタッチしても追尾を開始します。

追尾を終了するには

- ・ シャッターボタンまたは **AF-ON** ボタンを放すと、追尾を終了します。
- ・ フォーカスポイントは開始前の位置に戻ります。
- ・ **OK** ボタンまたはタッチで追尾を開始した場合は、**OK** ボタンを押すと追尾を終了します。フォーカスポイントは中央に戻ります。
- ・ **Q** (?) ボタンを押すと、ターゲット追尾 AF を終了します。

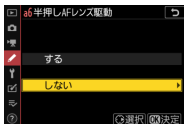
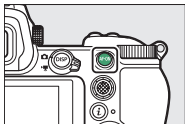


ターゲット追尾 AF の開始 / 終了を他のボタンに割り当てる

カスタムメニュー f2 [カスタムボタンの機能] で **Fn1** ボタン、**Fn2** ボタン、**Fn** レンズの **Fn** ボタン、**Fn2** レンズの **Fn2** ボタンに [ターゲット追尾] を割り当てられます。AF エリアモードが [オートエリア AF]、[オートエリア AF (人物)]、[オートエリア AF (動物)] のときに割り当てたボタンを押すと、ターゲット選択画面に切り替わってターゲット追尾 AF が可能になります。

ピント合わせの操作とリリース操作を別のボタンに分けたい

カスタムメニュー a6 [半押し AF レンズ駆動] を [しない] に設定すると、ピント合わせは **AF-ON** ボタンのみで行います。ポートレート撮影やスポーツ撮影などの **AF-C** を使用するシーンで、シャッターボタンはリリースに集中できます。

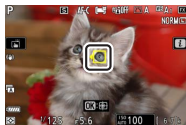


- **AF-ON** ボタンでピント合わせをした後に **AF-ON** ボタンを放すと AF が停止します。この状態から構図変更をしてシャッターボタンを押しても、再度ピント合わせをせずにリリースのみ行なえます。
- フォーカスポイントの移動をサブセクターで行い、ピント合わせを **AF-ON** ボタンで行うと、右手の親指を少し動かすだけで構図づくりを素早く行えます。

動物 AF を使って犬や猫の顔や瞳にピント合わせをしたい

【オートエリア AF (動物)】 に設定した場合

【オートエリア AF (動物)】 に設定した場合も犬や猫の顔や瞳を検出できます。複数の顔や瞳を検出すると、フォーカスポイントに ◀ および ▶ が表示されます。マルチセレクターの ⌚ ⌚ を押してピント合わせをしたい顔や瞳を選ぶことができます。



動物撮影の設定を撮影モードダイヤルに登録する

設定を撮影モードダイヤル **U1**、**U2**、**U3** に登録しておくことで、撮影モードダイヤルを切り替えるだけで複数の設定を一気に変更できます。詳しくは「よく使う機能を撮影モードダイヤルに登録したい」(□46) をご覧ください。

動物 AF のご注意

- 犬や猫の種類によっては顔や瞳を検出できない場合があります。また、犬や猫以外に枠が表示されることがあります。
- 次のような場合は、瞳および顔が正常に検出できないことがあります。
 - 顔が画面に対して大きい / 小さい場合
 - 顔が明るすぎる / 暗すぎる場合
 - 体毛などで目や顔が隠れている場合
 - 瞳と周辺部位の色が近い場合
 - 犬や猫の動きが大きすぎる場合
- AF 補助光が犬や猫の瞳に悪影響をおよぼす可能性があるため、カスタムメニュー a11 [内蔵 AF 補助光の照射設定] は [しない] に設定してください。

動いている犬や猫を撮影するときの簡易的な露出設定について

[53ページ](#)の基本設定に加え、次のように設定することをおすすめします。

- 撮影モード：**A**（絞り優先オート）
- 感度自動制御：する
- 低速限界設定：1/500 秒

撮影モード **A** では、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。シャッタースピードが1/500 秒よりも低速になるとカメラが判断した場合は感度を自動的にあげるため、1/500 秒より低速で撮影することはありません。なお ISO 感度が高くなると、撮影した画像にノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。

必要な画像に印をつけたい

撮影した画像には、再生画面でプロテクト（保護）をかけたりお気に入りの度合いによって評価をつけたりできます。設定したプロテクトやレーティングは、Capture NX-DまたはViewNX-iにも反映されます。

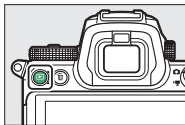
● プロテクトを設定する

大切な画像を誤って削除しないために、選んだ画像にプロテクトを設定できます。ただし、メモリーカードを初期化すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

i メニューで設定する

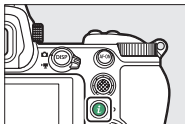
再生時の **i** メニューで画像をプロテクトできます。

- 1** ▶ ボタンを押して再生画面を表示する



- 2** プロテクトしたい画像を選んで **i** ボタンを押す

再生時の **i** メニューが表示されます。



3

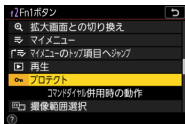
「プロテクト」を選んで **OK** ボタンを押す

- ・ **OK** アイコンが表示されます。
- ・ プロテクトを解除するには、解除する画像を選んで再度「プロテクト」を選びます。

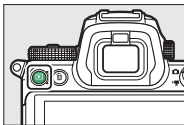


Fn1 または Fn2 ボタンで設定する

カスタムメニュー f2 [カスタムボタンの機能] で **Fn1** または **Fn2** ボタンに「プロテクト」を割り当てておくと、ボタンを押すだけでプロテクトを設定できるので便利です。

**1**

Fn ボタンを押して再生画面を表示する

**2**

プロテクトしたい画像を選んで **Fn1** または **Fn2** ボタンを押す

- ・ **OK** アイコンが表示されます。
- ・ プロテクトを解除するには、もう一度 **Fn1** または **Fn2** ボタンを押します。




必要な画像に印をつけたい

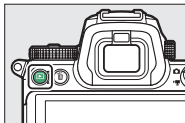
● レーティングを設定する

選んだ画像にレーティングを設定します。プロテクトした画像にはレーティングを設定できません。プロテクトを解除してからレーティングを設定してください。

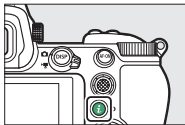
i メニューで設定する

再生時の **i** メニューで画像にレーティングをできます。

- 1**  ボタンを押して再生画面を表示する



- 2** レーティングを設定したい画像を選んで **i** ボタンを押す
再生時の **i** メニューが表示されます。



- 3** [レーティング] を選んで **OK** ボタンを押す



4

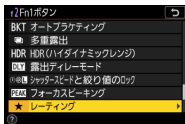
レーティングを設定する

- ・メインコマンドダイヤルを回して、★★★★★～★、なし、☒（削除候補）から選びます。
- ・**OK** ボタンを押して決定します。



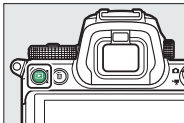
Fn1 または Fn2 ボタンで設定する

カスタムメニューf2 [カスタムボタンの機能] で **Fn1** または **Fn2** ボタンに [レーティング] を割り当てておくと、ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してレーティングを設定できるので便利です。



1

▶ ボタンを押して再生画面を表示する



2

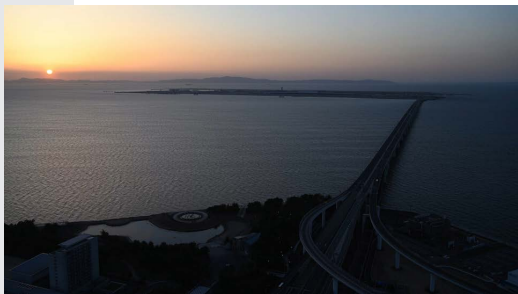
レーティングを設定したい画像を選び、**Fn1** または **Fn2** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回す

- ・★★★★★～★、なし、☒（削除候補）から選びます。
- ・ボタンを放して決定します。



タイムラプス

静止画をつないで1つの動画を作成する「タイムラプス動画」について、基本設定やおすすめ機能を紹介します。



タイムラプス動画とは

タイムラプス動画とは、設定した撮影間隔で自動的に撮影した静止画をつないで動画として表現するものです。このカメラでは、静止画撮影メニューの「インターバルタイマー撮影」を使う方法と「タイムラプス動画」を使う方法があります。

● 「インターバルタイマー撮影」と「タイムラプス動画」の違いについて

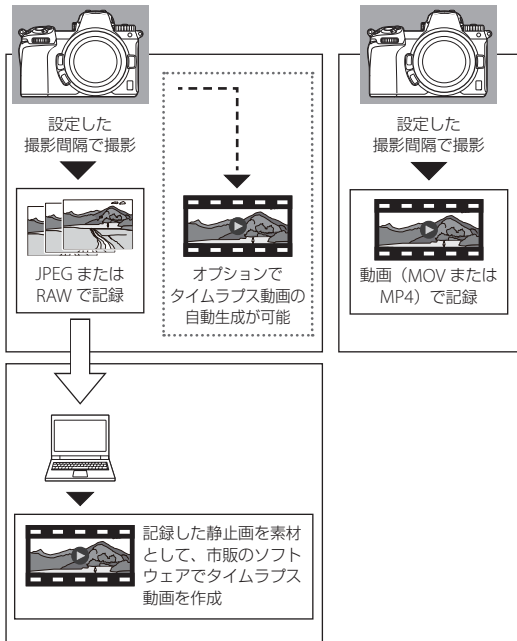
	インターバルタイマー撮影	タイムラプス動画
難易度	高	低
動画作成までの工程	<ol style="list-style-type: none">1. 「インターバルタイマー撮影」で撮影※2. 撮影した静止画をパソコンに移動3. 市販のソフトウェアで動画を作成	<ol style="list-style-type: none">1. 「タイムラプス動画」で撮影 撮影終了時にカメラ内で動画が自動生成される
保存形態とファイル数	数百～数千枚の一連の静止画ファイル（RAW, JPEG）	1つの動画ファイル
編集時の特徴	<ul style="list-style-type: none">・ 静止画から動画の作成が必要・ 高画素データの場合はトリミングが可能・ RAW画像の場合はホワイトバランスなどの調整が可能	生成した動画を編集するため、インターバルタイマー撮影と比べて編集の自由度が低い

※ オプションでタイムラプス動画の自動生成が可能

動画作成の概念図

インターバルタイマー撮影

タイムラプス動画



タイムラプス撮影の準備と基本設定

ここでは静止画撮影メニューの[インターバルタイマー撮影]を中心に説明します。[タイムラプス動画]で撮影を行う場合も基本的な設定内容は同じです。

● 事前の準備

電源の確保

- 十分に充電されたバッテリーを用意してください。
- 電源が確保できる場所であれば、別売 (Z 6II) または付属 (Z 7II) の本体充電 AC アダプター EH-7P、または別売のパワーコネクター EP-5B と AC アダプター EH-5d/EH-5c/EH-5b のご使用をおすすめします。
- 別売のパワーバッテリーパック MB-N11 やバッテリーパック MB-N10 を使用して 2 つのバッテリーを装着すると、カメラ単体よりも長い時間の撮影が可能になるためおすすめです。MB-N10/MB-N11 を使用すると、撮影を中断せずに電池を交換するホットスワッピングも可能なため、予備のバッテリーを用意することでさらに長時間の撮影が可能になります。
- このカメラでは、Anker 製の推奨モバイルバッテリー PowerCore+ 26800 PD 45W を使用して USB 給電することも可能です。

メモリーカードの準備

あらかじめ画像サイズや画質モード (JPEG/RAW/JPEG+RAW)、撮影時間、撮影間隔を決めて試し撮りを行ってファイルサイズを見積もり、十分な容量のメモリーカードを用意してください。

カメラの日時設定の確認

カメラの日時が正しく設定されているか確認してください。

三脚の準備

タイムラプス撮影を行う場合、カメラを三脚で固定する必要があります。風で倒れたりしないような三脚を用意してください。

● 撮影開始前の準備

カメラの設置

撮影場所を決めたら三脚を設置し、カメラを固定してください。カメラが不安定になっていないか、電源のケーブルが絡まっていないか、電源が確保できる配置になっているかを必ず確認してください。

構図とピントの確認

- ・ 実際の撮影を始める前に試し撮りを行い、構図やピントが合っているかどうかを確認してください。
- ・ 静止画撮影メニュー [撮像範囲設定] を [FX (36 × 24)] に設定して静止画を撮影する場合でも、タイムラプス動画は 16:9 のアスペクト比 (縦横比) で作成することになります。構図を決めるときは一度 [16:9 (36 × 20)] に切り替えて確認することをおすすめします。

撮像範囲を素早く変更する

カスタムメニュー f2 [カスタムボタンの機能] で **Fn1** または **Fn2** ボタンに [撮像範囲選択] を割り当てると、割り当てたボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すことで撮像範囲の設定を素早く切り換えられます。

結露の対策

結露が発生しやすい環境で撮影する場合は、市販のレンズヒーターの使用をおすすめします。

● [インターバルタイマー撮影] の基本設定

[インターバルタイマー撮影] でタイムラプス動画用の静止画を撮影する場合におすすめの設定は、次の通りです。

撮影間隔	撮影シーンによって異なります (☞72)
撮影回数×1回のコマ数	撮影シーンによって異なります (☞72)
露出平滑化	する
サイレント撮影	する
撮影間隔優先	する
撮影間隔毎の AF 駆動	しない
オプション	タイムラプス動画
撮影開始時の記録フォルダー	新規フォルダー作成： <input checked="" type="checkbox"/> ファイル番号リセット： <input checked="" type="checkbox"/>

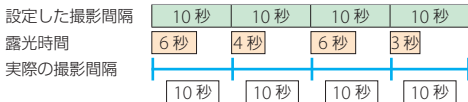
撮影間隔

撮影シーンによって推奨設定が異なります。詳しくは「[撮影シーンの別の推奨設定](#)」(P.72)をご覧ください。

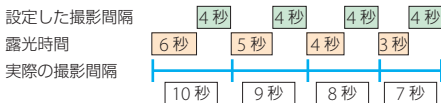
撮影間隔について

一部の他社製カメラでは、設定する「撮影間隔」は露光と次の露光までの間隔のことを指す場合があります。この場合、撮影するコマと次のコマまでの間隔が撮影ごとの露光時間によって変動することがあります。これに対しニコン製カメラの場合、設定する「撮影間隔」は撮影するコマと次のコマの間隔を指すため、一定の間隔でインターバル撮影を行うことができます。

■ニコン製カメラの場合



■一部の他社製カメラの場合



タイムラプス撮影の準備と基本設定

撮影回数×1回のコマ数

撮影シーンによって推奨設定が異なります。詳しくは「[撮影シーン別の推奨設定](#)」(☞72)をご覧ください。

- 「**撮影間隔優先**」が「**する**」に設定されている場合は、1回のコマ数は1コマに固定されます。

露出平滑化

「**する**」を選ぶと、1コマ前に撮影した静止画と大きく明るさが変化しないようにカメラが自動で露出を調整します。

- 輝度の変化が大きい被写体を撮影するときは、撮影と撮影の間に輝度変化することで露出平滑化の効果が出にくいことがあります。輝度変化が大きい場合は、撮影間隔を短くすることをおすすめします。

サイレント撮影

「**する**」を選ぶと、シャッター動作による振動とシャッター音を出さずに撮影できます。

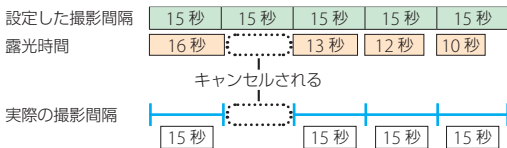
- 「**する**」に設定していても、完全に無音にはなりません。撮影時に絞りやオートフォーカスなどカメラの動作音がすることがあります。

撮影間隔優先

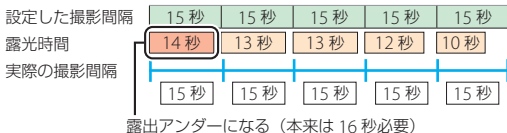
【撮影間隔優先】を【しない】に設定すると撮影間隔よりも露光時間を優先するため、設定した撮影間隔で撮影できずにその回の撮影がキャンセルされることがあります。

【する】に設定すると、各回の撮影がキャンセルされないようにカメラが自動でシャッタースピードを変更し、設定した撮影間隔の時間内に収めます。撮影モードがPまたはAの場合のみ有効になります。撮影間隔より長い露光時間が必要な場合は露出アンダーになることがあります。

■【しない】に設定した場合



■【する】に設定した場合



タイムラプス撮影の準備と基本設定

撮影間隔毎の AF 駆動

[**しない**] に設定すると、フォーカスモードを **MF** に設定することなく、カメラが予期せずピント合わせを行うことを防げます。

オプション

[**タイムラプス動画**] に設定すると、撮影した静止画をつないでアスペクト比（縦横比）が 16：9 のタイムラプス動画として記録できます。撮影直後に動画の仕上がり具合を確認することができるため、パソコンでタイムラプス動画を作成する前に撮り直すことができるので便利です。

[**AE ブラケットिंग**] に設定すると、露出値（AE）を変えながら撮影します。設定したコマ数が [**撮影回数 × 1 回のコマ数**] に反映されます。露出変化が予想しにくい撮影条件時に便利です。また、露出が異なる複数の画像を市販の画像編集ソフトウェアで合成して HDR 動画を作成することもできます。

撮影開始時の記録フォルダー

[**新規フォルダー作成**] を有効にすると、撮影を開始するたびに新しいフォルダーを自動的に作成して画像を保存します。撮影ごとに個別のフォルダー内に撮影した画像がまとめられるため、画像を管理しやすくなります。

● その他の基本設定

静止画撮影メニュー

画質モード*	RAW または FINE ★
画像サイズ	サイズ L
ISO 感度設定	撮影シーンによって異なります (☞72)
ホワイトバランス	撮影シーンによって異なります (☞72)
ピクチャーコントロール	撮影シーンによって異なります (☞72)
測光モード	マルチパターン測光
手ブレ補正	しない

※ 画質モードを [RAW] に設定しておく、動画編集の過程で好みの画像調整が可能になります。ただしファイルサイズが大きいため、画像調整を行わない場合は [FINE ★] に設定することをおすすめします。

撮影状況を確認するには

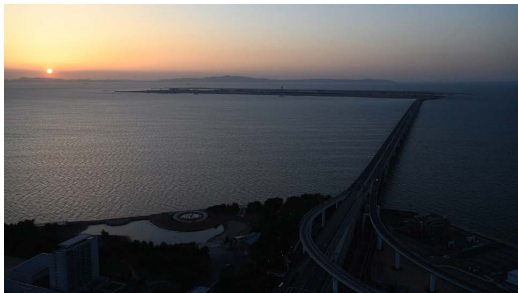
再生メニュー [撮影直後の画像確認] を [する] に設定しておく、撮影した画像を自動的に画像モニターまたはファインダーに表示します。露出やピントの具合を確認したいときに便利です。ただし、次のことにご注意ください。

- 撮影間隔を 4 秒以上に設定する必要があります。
- バッテリーの消耗は早くなります。

撮影シーン別の推奨設定

撮影シーンごとのおすすめの設定は次の通りです。

● 日の入りを撮影する場合



実際に作成したタイムラプス動画は、以下の URL からご覧いただけます。

https://nps.nikonimaging.com/technical_info/technical_solutions/z7_2_z6_2_tips/recommended_settings/

このタイムラプス動画を作成したときの撮影条件は次の通りです。

使用レンズ	NIKKOR Z 24-70mm f/4 S
焦点距離	30mm
撮影モード	A （絞り優先オート）
絞り値	f/5.6
ISO 感度	100
感度自動制御	する
制御上限感度	6400
低速限界設定	3 秒
ピクチャーコントロール	オート
ホワイトバランス	オート （WB A1 ：雰囲気を残す）
撮影間隔	4 秒
撮影回数 × 1 回のコマ数	2000 × 1

このタイムラプス動画は、撮影した 2000 枚の画像の内、約 1140 枚を使用して作成しました。動画のフレームレートを 30fps に設定したことで、動画の再生時間は約 38 秒となっております。

- 再生時間 (秒) は撮影枚数 ÷ フレームレート (fps) で計算します。
例) 1140 (枚) ÷ 30 (fps) = 38 (秒)

● 雲の流れを撮影する場合



実際に作成したタイムラプス動画は、以下の URL からご覧いただけます。

https://nps.nikonimaging.com/technical_info/technical_solutions/z7_2_z6_2_tips/recommended_settings/

このタイムラプス動画を作成したときの撮影条件は次の通りです。

使用レンズ	NIKKOR Z 14-24mm f/2.8 S
焦点距離	18.5mm
撮影モード	A （絞り優先オート）
絞り値	f/8
ISO 感度	100
感度自動制御	しない
制御上限感度	—
低速限界設定	—
ピクチャーコントロール	風景
ホワイトバランス	自然光オート
撮影間隔	1 秒
撮影回数 × 1 回のコマ数	1200 × 1

このタイムラプス動画は、撮影した 1200 枚の画像の内、約 1080 枚を使用して作成しました。動画のフレームレートを 30fps に設定したことで、動画の再生時間は約 36 秒となっております。

- 再生時間 (秒) は撮影枚数 ÷ フレームレート (fps) で計算します。
例) 1080 (枚) ÷ 30 (fps) = 36 (秒)

撮影開始前の最終チェックリスト

天候状況

雨の対策は大丈夫ですか？

雨の予報がある場合、カメラ用のレインカバーやレンズフードの装着をおすすめします。

強風の対策は大丈夫ですか？

- ・ 強風が吹いても倒れない三脚を用意してください。
- ・ カメラのストラップは、三脚に結ぶなどして風に吹かれて写り込まないようにしてください。

結露の対策は大丈夫ですか？

結露が発生しやすい環境で撮影する場合は、市販のレンズヒーターの使用をおすすめします。

周囲の確認

撮影場所を占有しても他の人の邪魔になりませんか？

撮影地点が人通りの多いところや立ち入り禁止区域でないか確認してから、カメラを設置してください。可能であれば、人通りの多い時間帯を避けて撮影を行ってください。

暗くなっても安全性の確保はできていますか？

周囲が暗くなる時間帯まで撮影を行う場合は、懐中電灯などを用意しておいてください。足元の不安定な場所や高所など、危険な場所での撮影は避けてください。

メモリーカードの空き容量

カードの空き容量は充分ですか？

予備のカードは用意されていますか？

電源確保

- バッテリーの残量は大丈夫ですか？
- 予備のバッテリーは用意されていますか？
- カメラに電力は供給されていますか？

構図とピントの確認

- 16：9 を想定した構図になっていますか？

静止画撮影メニュー [撮像範囲設定] を [FX (36 × 24)] に設定して静止画を撮影する場合でも、タイムラプス動画は 16：9 のアスペクト比（縦横比）で作成することになります。構図を決めるときは一度 [16:9 (36 × 20)] に切り替えて確認することをおすすめします。

- 水平の構図になっていますか？

水平の確認を行う場合、DISP ボタンを何度か押すと表示される水準器表示を参考にして、カメラの傾きを調整してください。

- ピントは合っていますか？

実際の撮影を始める前に試し撮りを行い、構図やピントが合っているかどうかを確認してください。

Nikon